

## PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

開催日時:2019年3月21日(木)10:30-16:00

会場:朝日新聞大阪本社 12階アサコムホール

参加者:教員9名(京都府立大山崎中学校、京都府京丹後市大宮中学校、雲雀丘学園高等学校、兵庫県立千種高等学校、(福井県)福井特別支援学校、愛媛県立松山東高等学校、福岡県立久留米高等学校)

平成31年3月21日(木)に、全国中高教員向けの即興型英語ディベートワークショップが開催しました。実践に移る前に、PDA代表理事(大阪府立大学 工学研究科 准教授)中川智皓より、挨拶とディベートの概要が説明されました。現場における授業で導入できるように、即興型英語ディベートは50分で行われます。また、各参加者の自己紹介が行われ、今回の意気込みや現在学校で行っている取り組み、今後の展望などを語っていただきました。

早速、参加者がチーム分けをされ、それぞれがディベートの準備に取り組みました。第1ラウンドのお題は“**Registration in the bone marrow bank should be a citizen's obligation.**”「骨髄バンクへの登録を国民の義務とすべきである。」でした。各々が事前に持っている知識や競泳の池江璃花子選手の例を用いた議論が行われ、初回からハイレベルなディベートとなりました。

第1ラウンドの後は、同会場で行われている第2回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会の生徒の実践を見学しました。「非常にレベルの高い議論だった」という意見が聞かれました。中学生のディベートを見学したことにより生じた疑問・感想をもとに教員向けレクチャーが行われました。



第2ラウンドが始まりました。第2ラウンドのお題は“Production of plastic bags should be banned.”「ビニール袋の製造は禁止されるべきである。」でした。中学生の全国大会決勝で使われるお題を用いることで、見学の際に理解が深まることが狙いです。初回のグループとは全く違う組み合わせで行うため、ジャッジを初めて担当する参加者はルールを熱心に確認しました。第1ラウンドで緊張がほぐれたのか、より落ち着いてスピーチをされる参加者が多く見られました。肯定側から資源の温存に関する議論が挙げられた一方、否定側からは現実の雇用問題にも触れた議論が挙がりました。POIも積極的に行われ、2人の参加者が同時にPOIに立つこともありました。第2ラウンド終了後には質疑応答が行われ、お題やジャッジの方法、アカデミックディベートとの差異等、活発な議論となりました。

最後は、中学生全国大会の決勝を見学し、ジャッジ練習をしました。決勝の論題解説（キーノートレクチャー）を聞き、さらに知見を深めました。その後、これらの内容を踏まえたまとめが行われました。自らがディベートを行ったことで得た新しい目線を授業で用いたいという感想や、県全体にパラメンタリーディベートを広めたいという意見も聞かれました。今後の授業での活用を祈念し、閉会しました。

#### 参加者の声（アンケート抜粋）

- 本校では高1・2生から募集して実施していますが、中3生にも開くことができる可能性があると感じました。
- 中川先生に普段抱いている疑問をきくことができるととても充実していました。内容も自分たちがやって、中学生のディベートを見て、と盛りだくさんで良かったです。
- 実践と大会の両方とも体験できるのが良い。予選①を最後まで見たかった。
- このような大会が関西で開催され、こちらに住んでいる私としてはありがたいですが関西の学校が少ないようで残念です。もっと公・私学とも広がってほしいです。
- （キーノートレクチャーについて）He was a good choice and offered an interesting perspective.
- （PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会について）生徒と一緒に参加したいです。
- ディベートのすばらしさとたくさん話せるがゆえの難しさが分かりました。
- （認定教育ジャッジについて）関心があるが、自信がないので自己研鑽を積みます。
- 今回はセミナーにも参加でき、中川先生のレクチャーも受けられて良かったです。他の先生方とも良い交流ができました。

以上